

実施日：令和6年6月6日（木） コマ：1

事業名：観測業務

【とりまとめコメント】

- ・ 国民の安心・安全な暮らしにつながる、大変重要な事業だと考える。HPの閲覧回数などの量的な評価もあるが、質的な評価についてもぜひ評価として提示いただきたい。使われている方々の評価などを定期的に行うなど、求められている情報が適切に発信できていることを明確に示したほうがよいと考える。
- ・ 基本的に EBPM の観点を踏まえた指標になっていると感じたし、予測精度も改善されていると感じた。技術的指標の改善だけではなく、現実にとどのような影響があるのか（定量的なインパクト）が欲しいと思う。
- ・ この事業の究極の目的は国民の生命財産の保全にあるので、インパクトまたはアウトカムにそれを表す要素を入れるべきでないか。アウトプットは設置数、地点数でなく、それを使った情報発信の量のほうがふさわしいのではないか。
- ・ インパクトとして防災に主眼が置かれていること、アウトプット、アウトカムの設定も現時点では適切と思われる。インパクトである防災（被害）について本事業の効果として定量的に把握できる指標の探索は引き続き行われるべき。
- ・ 社会のインフラ的意義を有する本事業で本質的に重要なのは完全に近いアウトプットの実現であり、アウトカムの実現に焦るあまりその点がおろそかになることのないよう留意すべきである。この点はレビューシート等においても明確にすることが望ましい。
- ・ アウトカムは少なくとも2段階で設定したほうがよい。雨量予測精度については、機器の更新や改善等を行ったエリアでの精度と全国レベルでの精度に分ける、線状降水帯予測に関する情報の改善については、情報の改善状況とその後の国民の行動に分ける、といった対応が必要ではないか。

【外部有識者のその他コメント】

- ・ インパクトとして、気象に関する観測結果が着実に蓄積されていることに由来する統計的成果・学術的成果の実現を想定することも考えられるのではないか。
- ・ 予測（誤差）と現実の被害状況を比べるといった帰納的な方法で考えてみるのもよいかと思う。
- ・ インパクトまたはアウトカムに国民の生命財産の保全という要素を入れる場合、測定にあたって単に金額や件数を指標とすると人口産業の密集地に設備予算を集中することになるので、適宜一人当たり被害額の減少等も加味すべき。
- ・ 国民の生命財産の保全というインパクトまたはアウトカムの実現には、災害の減少に効果的な情報の伝達等も含めてはどうか。他省庁・他の機関の協力も必要となることもあるが、協力を得る活動も加味してはどうか。
- ・ 引き続き、アルゴリズムの改善や機器の性能を向上させることなどにより予測精度を向上させることが求められる（精度が向上した場合は、長期アウトカムである予測値と実測値の比率の設定を変更する必要があるかもしれない）。

（以 上）